

嬉野医療センターを受診された患者さまへ

研究情報公開について

通常、臨床研究を実施する際には、文章もしくは口頭で説明・同意を行い実施します。臨床研究のうち、患者さまへの侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いた研究については、国が定めた指針に基づき「対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得る必要はありません」が、研究の目的を含めて、研究の実施についての情報を公開し、さらに拒否の機会を保障することが必要です。

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象に該当する可能性がある方で、診療情報等を研究目的に利用、または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

研究課題名	(第 78 回 日本大腸肛門病学会総会) pT1大腸早期癌の臨床病理学的検討
研究責任者(所属名)	黨 和夫 (消化器外科部長)
本研究の目的	大腸癌は進行して発見されることが多く、pT1(粘膜または粘膜下層までの浸潤)の早期大腸癌は現在でも2割に満たない。 pT1の早期大腸癌のうち、粘膜下層1mm未満の浸潤で分化型腺癌、脈管侵襲陰性のもは内視鏡的治療の適応となります。pT1症例で根治手術を受けた症例の臨床病理学的特徴を明らかにすることは、内視鏡治療後の追加手術の適応を判断するうえで重要と考えられます。
調査データの該当期間	2015年4月から2021年12月の6年9カ月間
研究の方法 (使用する試料等)	上記期間中に当科で経験した、大腸手術症例は524例で、非切除症例を除いた症例は487例でした。さらに非腫瘍性病変と大腸癌以外の腫瘍性病変および虫垂粘液癌を除いた症例は472例で、うちpT1症例の69例(14.6%)を対象としました。 また、pT1症例を、リンパ節転移を認めた群9例と、認めなかった群60例の2群に分け、2群間で各臨床病理学的パラメータを比較検討しました。
個人情報の取り扱い	利用する情報から、氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除した状態で取り扱われます。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：0954-43-1120 (病院代表) 担当者：管理課長
備考	